

ARTS for HOPE 活動報告書

2015年9月6日-10日

①9月6日／宮城県牡鹿郡女川町 石巻バイパス仮設住宅「Happy Doll Project」の実施

サノフィ株式会社との協働プログラムとして、女川町の方が暮らす石巻バイパス仮設住宅（東集会所）でHappy Doll Projectを実施しました。約半年ぶりの再会。「前回の続きがやりたくて…」と未完成で持ち帰った作品を大事そうに持ってきてくれた方、つくりたいものを前々から考えて一番乗りで遊びに来てくれた方、久しぶりに出会えた皆さんの笑顔に安心しました。「人数が集まれるのはこれが最後かも」という支援員さん。打ち切りになっていく活動も多いとのこと。「今度はいつ来るの?」という住民さんの言葉を背に、またの再会を願いながら集会所を後にしました



②9月6日／宮城県石巻市 仮設南境第5団地「Happy Doll Project」の実施

2013年に子育て世代のお母さんを対象としたプログラムで訪れた仮設団地。縮小が進み戸数も減っていますが「みんな仲間だから」と、近くの小さな世帯数の住宅にも自治会長さんが声をかけて下さいました。「震災後はこれがあったからなんとかやってこれた」と、手芸を心の支えにして生きてこられたという方も。「今日の出会いに元気もらった」という住民さんたちの笑顔に、私たちがエネルギーをもらいました。仮設住宅の縮小に伴い、今後活動に参加してくれる人たちは減っていきます。でも、だからこそ強く求められている。そう実感したプログラムでした。



③9月7日／宮城県牡鹿郡女川町 新田仮設住宅「Happy Doll Project」の実施

サノフィ株式会社との協働プログラムとして、2ヶ月ぶりの再訪となった新田仮設。いつも一緒に会場を盛り上げ、温かく見守ってくれる自治会長さんや支援員さん、美味しいご飯でもてなして下さる副会長さん、住民の皆さんと再会しました。今回は「犬」をモチーフにした作品が人気に。流されて今はもうなくなってしまった元の家に戻ろうとする飼い犬のお話などもお伺いしました。復興工事で町はすっかり姿を変えていますが、皆さんの生活の全てが震災前の記憶と震災当時の体験に強く結びついており、今もそれらと向き合う日々を、支え合い、助け合い、笑い合い、励まし合いながら、懸命に乗り越えようとしていることを感じました。



④9月8日／岩手県盛岡市 盛岡市立病院「Happy Doll Project」の実施 ※Wonder Art Production 主催



盛岡市立病院で4年ぶりのHappy Doll Projectを開催しました。精神科でのプログラムには前回も参加してくれた患者さんの姿も。院内保育園のとってもかわいい子どもたちも遊びに来てくれ、賑やかなプログラムとなりました。自分の中にあるイメージをかたちにしていく、妥協を許さない姿勢はまさにアーティスト。患者さんの感想には「心がおちついた。ありがとう、又会いたいです」と書かれていました。クリエイティブな作品たちは11月に院内で開催される作品展で展示されます。



協賛：サノフィ株式会社、花王株式会社

◎9月9日／岩手県大船渡市 長洞仮設住宅「Happy Doll Project」の実施

6月、8月に続く再訪となった長洞仮設住宅。以前も遊びに来てくれた住民の皆さんもたくさん集まり、嬉しい再会となりました。活動を通して、こうして繰り返し出会えることの喜び。当たり前のようにできて決して当たり前ではない二度とは訪れないかけがえのない時間です。



◎9月9日／岩手県大船渡市 大立仮設住宅「Happy Doll Project」の実施

6月のアトリノーションに続く再訪。おしゃべりしながらHappy Dollづくりを楽しむ中で、ふと話題に上がった「夕飯のおかず」。その中でも、震災により家族が離れ離れになり、家族のかたちが変わってしまったこと、食べるものまで変わってしまったことが滲み、孫と住んでいたときによく食べていた「グラタン」を懐かしむお母さんの声がありました。日常を変えた震災は、今も現在進行形で続いています。



⑦9月10日／岩手県陸前高田市 堂の沢仮設住宅「Happy Doll Project」の実施

初めて訪れる30世帯ほどの住宅。実用的な手芸はプロ級ですが、Happy Dollのような自由な創作は初めてのお母さんたち。「だんだん楽しくなってきた！」と真剣に取り組まれていました。小さな住宅とあって支援団体が入ることは少ないとのこと。「楽しかった。また来てね」という嬉しい言葉に見送られ、福島～宮城～岩手を横断した6日間の遠征、全7回のHappy Dollが終わりました。

